

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和3年12月2日

事業所名 児童デイサービス事業所「ひかり」 保護者等数(児童数)13 回収数 7 割合 54%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いい え	わからな い	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	4	1	1	1		室内だけではなく、外にも遊べる広場や簡素な遊具を整備したり、別室に分散する等の配慮をする事で支障なく過ごせています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	4	1	0	2		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	0	0	1		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	6	1	0	0		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	3	2	1	2		山崎公園、寺谷公園、七里御浜遊歩道、新鹿海岸、ドライブ、DVD鑑賞などの活動を日替わりで組み合わせたり、現地でも散歩中心の日や遊具遊び中心など飽きてしまわないような配慮をしています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	1	2	2		例年は地域の学校児童との園芸活動などを取り入れていましたがコロナ禍にあり見合わせ中です。圏域内の放課後等デイサービス3事業所での合同活動について企画段階です。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7	0	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	6	0	0	1		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5	1	0	1		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	2	2	3		事業活動が放課後のみの対応であることから、保護者会の組織はしていません。例年は親子参加型の行事を開催していますが、コロナ禍にあり見合わせています。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4	0	0	3		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6	0	0	1		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	4	2	0	1		
	14 個人情報に十分注意しているか	5	0	0	2		
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	3	1	0	3		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	0	0	5		
満足	17 子どもは通所を楽しみにしているか	6	1	0	0		

年度	18	事業所の支援に満足しているか	5	2	0	0	
----	----	----------------	---	---	---	---	--

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年12月2日

事業所名 児童デイサービス事業所「ひかり」

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		見守りの都合上や子ども同士の相性を考慮して、室内外・室内でも別室活用が出来ている。	雨天時は全員が室内で過ごすため狭く感じたり、騒がしい場面が発生する。
	2	職員の配置数は適切である	3		・最低基準に加えてパート1名を配置しているため、余裕のある対応が出来ている。 ・学校ごとに下校時間が異なる曜日には法人職員に送迎の応援を依頼している。	圏域内3か所の放デイ事業所では地域すべてのニーズを補うことが出来ず、長期休暇期間中に限り、普段よりも多くの利用児を受け入れるため個別対応が難しい場面がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3		ハード面は最低限整えられており問題ない。	重度心身障がいの方までの受け入れについては人員、他の利用児対応への影響もあって受け入れ困難である。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3		毎週のミーティングで各職員からの意見を募り業務改善につなげています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3		アンケートは年1回ですが、連絡帳や電話・送迎時などで示された意向や要望を業務に活かしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3		ホームページ上で公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3		現時点では自己評価のみ実施しています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		オンライン研修などで研鑽に努めています。年末・年度末にも受講予定あり。	今年度はコロナウイルスの影響で集団形式の研修参加は見合わせています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3		日頃から利用児の様子や行動変容について状況把握・分析・試行錯誤をしている。	長期休暇のみの利用児童に関しては、支援の連続性が無く、状態変化が大きい事もあり利用前の情報連携に改善の余地を感じる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		専用のソフトを活用し、年間を通じてアセスメントしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3		ミーティングなどを活用して週毎・月毎の活動内容について協議している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		利用児の特性や運動能力等を勘案して数パターンの活動メニューを用意している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3		心身ともに達成感を感じられるよう運動機会を設けている。休日に関しては余暇活動の要素を取り入れて平日には行けない場所まで出掛けている。	長期休暇に関しては利用児数が多く遠方には出掛けず午前午後の活動メニューの組み合わせで対応中。滞在時間も長くなるので退屈しないようにや健康面に普段以上に留意している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3		利用児によってスキルアップや運動量確保など個別に課題意識をもって対応している。	利用児童の多い曜日や、各校の下校時間に差がある日など十分な個別対応が出来ない場面もある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		朝礼などの会議形式ではないものの、当日の利用予定者や天候などに応じて打ち合わせをしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3		記録入力時やミーティング時などには振り返りと対策案などについて協議している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		同上。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3		半年毎にモニタリングを実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	3			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		児童発達支援管理責任者が対応している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3		保護者了承の上で学校のノートも確認させて頂いたり、学校へのお迎え時に教員とも情報連携している。	特定の曜日しか通所しない児童に関しては学校予定を把握できない事があり、個別に学校とのやり取りが必要である。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			対象者なし。	受け入れ要請があっても、人員、他の利用児対応への影響もあって受け入れ困難である。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3		必要に応じて関係機関への問い合わせや実地指導の要請を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3		引継ぎ会として卒業する年度末には計画相談支援事業所のサービス担当者会議に出席している。法人内の事業所を利用する場合は現地に出向いて支援ノウハウを教授することが出来ている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		必要に応じて関係機関への問い合わせや実地指導の要請を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3	一般の方との交流については、公園遊びの際に遊具使用の順番順守や大声など迷惑なことをしないよう実地で経験を積む機会を作っている。	例年、地元小学生との園芸活動に取り組むがコロナ禍にあり見合わせ中。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3		連絡帳や電話、送迎時などで共通理解ができるよう対応している。	日課変更に伴い、連絡ノートへの記載内容が少なくなっているため必要時には保護者からの問い合わせしてもらえばと考えている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3		少数であるが家庭生活・学校生活についての相談を受け付けて必要な支援をしている。	放課後の2～3時間での対応で取り組み可能なことは少なく、状況によっては圏域内の相談員へ引継ぎをしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3		利用契約時に対応している。サービス提供時間について就労されている保護者様方からの要望に応えるために長期休暇期間のみ8:00からの受け入れを開始した。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3		少数であるが家庭生活・学校生活についての相談を受け付けて必要な支援をしている。	放課後の2～3時間での対応で取り組み可能なことは少なく、状況によっては圏域内の相談員へ引継ぎをしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3		・保護者会としての組織はしていない。 ・利用児の通学先が複数に渡っている事もあって保護者同志の連携はやや薄い状況。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3		法人の苦情解決事業実施要綱や第三者委員での対応が可能である。苦情に至らなくても日常的な意見・要望への対応をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3		月末に翌月分の行事予定を含めた利用希望表で保護者とやり取りしている。また3カ月毎に法人内の広報誌を作成、発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	3		法人の個人情報管理規定、管理規則、マニュアルに準じた対応をしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3		視覚支援や集まり時の席順など可能な限り配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3		例年法人施設の行事を地域に開放しているが今年度はコロナウイルスの影響で行事を中止しています。放課後等デイサービス事業所単体の行事については一般の方を招くスペースがなく困難です。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3		整備済みである。	昨年度整備したばかりであり、必要に応じて実態に見合うような改善をしていく方針。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3		普段通所されていない登録児童にも参加してもらう為、夏休み(7月)に紀南ひかり園と合同の河川氾濫を想定した訓練を実施済み。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3		マニュアルは整備しており、接遇面も含めて日々の支援では留意している。	今年度はコロナウイルスの影響で集団形式の研修会開催は見合わせています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			対象者なし。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			対象者なし。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		ヒヤリハットや事故報告書の作成、リスクマネジメント委員会での分析や解決策の決定など組織的に対応できている。日々の遊びや活動の中で類似するような事例があれば教訓にしている。	